

虐待される動物救おう

能勢の英人女性オリバーさん訴え



犬の保護を訴えるオリバーさん
＝豊能郡能勢町野間大原で

ペットショップの狭いオリに詰め込まれた小犬、光もあたらない保健所の犬舎——もう二十近くボランティアで捨て犬やネコを預かっては、本当に欲しい人に渡している英人女性オリバーさん。オリバーさんは豊能郡能勢町野間大原五九五が、ここでの動物愛護ボランティアを募っている。家庭や役所で「虐待されている動物」を救うには、感受性豊かな子どもたちに、動物愛護の気持ちを抱いてもらうのが一番との思いが込められている。

欲しい愛護の心

子らにポスター募る

山のおもてにあるオリバーさんの家には、自分で飼っている犬七匹をはじめ、預かっている犬十六匹がいる。ほかにヤギやニワトリ、アヒル、ポニー、ウサギなど。学生時代、たまたま訪れた日本に親に入り、住みついたが、「日本人と動物との接し方」には驚いた。「小さくてかわいい時に、発作的に飼う。けれど、動物がだだきくなることを知らずにはない」

「何のために飼うのか。それ」
「ミミのように使い捨てにされる犬たちを黙って見ておれず、能勢の山間の田んぼに家を建て、不幸な犬たちを預かるようになった。日本動物福祉協会にも入り、その会員として、府に①犬猫の繁殖を防ぐため避妊・去勢手術の助成金制度を②探光・道風など保健所の抑留犬舎の改善を——などの要請書を出しなっている。

を考へてほしいのです。愛護を持ち運ぶさせてやれば、動物たちは幸せに生きられます。

決して犬はわんちゃんじゃないのです。生き物なんです。それだけに飼ひ方次第で、子どもに与えるのしつけにもなる。だけど、日本の親は甘いと思いませんか」
オリバーさんは、動物に無理強いな飼育家庭、商業本位のペットショップ、人間の温かさが消えた街角に、いま一度「うるおい」と呼びかける。

初めてのポスターコンテストのテーマは、「動物の命を大切に」。①責任を持って動物を飼うこと②捨て犬、捨てネコなどをやめさせること③動物の立場になって思いやりを持つこと。方へ。

挑戦2度目でV
東淀川の森さん
篠山ABCマラソン
兵庫県多紀郡篠山町で十一日開かれた篠山ABCマラソン(篠山町・朝日放送主催、朝日新聞社など後援)で、東淀川区太道南二丁目、主婦森直子さんが三十一歳で公認女子の部で



国際花と緑の博覧会(花の万博)に大阪市が出席するパビリオン「咲くやこの花館」のフラワーホールで、会期中に催されるイベントの内容や日程が決まった。世界の新婚を、あきらさん父子が祝いの舞で、世界の幸せをこぼす。

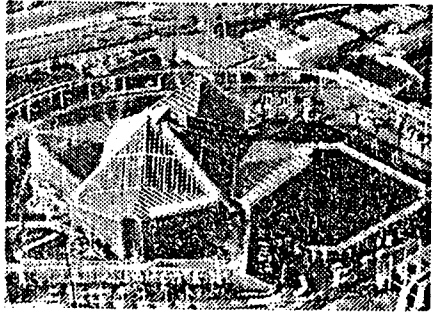
【オープニング行進】
EXPOカップル祝福式II
4月1日午前11時から、姉妹都市八市から招待した新婚夫婦各一組と、大阪市内に住む新婚夫婦三組の計十一組が、立会人の西尾市長夫妻から祝福を受ける。狂言の浅山千之丞、あきらさん父子が祝いの舞で、世界の幸せをこぼす。

カップル祝福式／手話落語／演奏会

夫婦が集う祝福式を皮切りに、ファッションショーや演奏会、手話落語など多岐にわたる。六月には一般市民も参加する芸術、音楽会も予定されている。

【レギュラー催事】
ママコ・ザ・タイム パン
トマイムの第一人者、米山愛

完成間近の咲くやこの花館
＝鶴見緑地で



咲くやこの花館
5月7日
午後5時
咲くやこの花館
5月7日
午後5時
咲くやこの花館
5月7日
午後5時